

平成27年度第11回沼田市市民構想会議（会議概要）

- 1 日 時 平成28年3月28日（月）午後2時から午後4時
- 2 場 所 沼田市役所 北庁舎 第二・第三会議室
- 3 出席委員 小幡 普委員（会長）、飯田富美子委員（副会長）、角田郁夫委員、田村 肇委員、桑原幸夫委員、津久井 勲委員、高橋美津子委員、峯川卓美委員、入澤 實委員、小川紀子委員、武井賢一委員、相澤宗利委員、浅沼美香委員、塩野大吉委員、生方隆夫委員、飯島千明委員
（16名）
- 4 欠席委員 林 孝俣委員、生方啓二委員、根岸恒雄委員、星野健一委員、小林昭紀委員、櫛渕光彦委員、武藤成孝委員、石澤いずみ委員、井熊基之委員、小林一太委員、宇敷 正委員、岡村 正委員、大塚喜男委員、平井良明委員、小尾孝男委員、吉野 昇委員、織田沢幸市委員、千明幹尚委員、金子文彦委員、小林 豊委員（20名）
- 5 アドバイザー 篠田暢之氏
- 6 沼 田 市 田村総務部長、栃原経済部長、内山都市建設部長、小池教育部長
（事務局：川方企画課長、川田企画課長補佐兼企画係長）
- 7 会議内容
 - (1) 開 会（事務局）
 - (2) あいさつ
会 長： 年度末の大変お忙しい中、会議にご出席いただきお礼を申し上げます。
5月に第1回を開催し、本日で11回目となる。平成27年度最終の会議である。前回の会議で出された意見、提言を整理したので、最終確認をお願いしたい。
NHK大河ドラマ「真田丸」の放送の影響もあり街中に活気が出てきた。この市民構想会議の意見、提言が市政に反映され、さらに活気あふれる沼田市をつくっていききたいと思っているのでよろしくお願いしたい。
 - (3) 前回の会議概要について
*修正意見等はなしであった。
 - (4) 議 題
 - ① 沼田市第六次総合計画策定に係る意見・提言について
 - 会議の前段で委員から会議要綱では、委員の1/2以上の出席をもって会議が成立するとなっているが、出席者が過半数を割っているため、どのような対応としたらよいかとの発言があり協議した。
 - ・ 資料は事前に配付されているので内容は承知の上で、欠席の連絡をいただいている。委任状はないが、委任されていると判断してもよいのではないか。また、当初の会議の確認事項では、代理出席者は傍聴人とする扱いになっている。（代理出席者2名）
 - ・ 年度末の忙しい時期にこれだけの委員が出席しているので、会議を進行してほしい。

- ・ 要綱はすぐには改正できない。意見、提言はまとまっており、内容は煮詰まっている状況であるので、郵送等により欠席委員から確認をもらい持ち回りの方式としたらどうか。
- ・ 事務局の負担軽減を図る考え方と、一方では委員の発言の重さも考慮し、欠席された委員から確認をもらう方向がよいのではないかと。

※ 協議した結果、欠席委員から書面により確認をもらい、最終的な意見、提言としてまとめて市長へ報告していくこととした。また、その対応については正副会長及び事務局に一任することが決定された。

〈意見等〉

- 会 長： 事前に配付した資料は、前回会議で出された委員の意見、提言を整理した内容になっている。最終確認をお願いしたい。
- 委 員： 各自自治体間の連携となっているが、利根沼田の各自自治体間の連携と事業所間、住民間の連携としてほしい。
- 委 員： これまで子育て環境の充実を主に意見を言ってきた。子どもの遊び場の必要性から、子どもの遊び場としての公園の整備・充実と子育て支援センターや公園に隣接した児童館の整備を追加してほしい。
- 委 員： 高齢者施設（ふれあい老人福祉センターなど）があることをもっと知ってもらおうとともに、利用してもらいたいとのことから、そのPRを追加してほしい。
- 委 員： 市のホームページの充実とインターネットを活用した市のPRを1項目として追加してほしい。
- 委 員： 日本だけでなく世界へ情報発信していくためには、インターネットの活用が重要だと思う。
- 委 員： 今は、パソコンよりスマートフォンにより情報検索を行う人が多い。
また、事業実施に伴うPDCA化を進めていくとともに、見える化が必要である。そうでないと、なかなか改善が図れない。
- 委 員： 子育て環境の支援として、施設整備の必要性を感じているので追加したらどうか。
- 委 員： 幼稚園と保育園の機能を兼ね備えた認定こども園が設置される。子育て環境の整備・充実して、室内型施設である児童館の設置を入れた方がよいのではないかと。また、公園の遊具の整備も必要だと思う。
- 委 員： 最近では外国人観光客いわゆるインバウンドが増加していることから、各施設等に外国語表記の案内板が必要ではないかと。
- 委 員： 語学力の向上が重要になってきている。
- 委 員： 英語力の強化・充実の必要性を感じている。
- 委 員： カフェコミュニティについて、行政が行うのか民間が行うのか補足説明を記載しておいた方がよいと思う。
- アドバイザー： 委員の皆様の市政に対する熱い思いや心豊かな議論をアドバイザーの立場から、ご発言を整理しながら拝聴させていただきました。
委員のお立場から、ご自身が最も問題視されている関心事のご発言が各

々、主となっており、沼田市の現状に対する問題解決のための提言として貴重なご意見もあり、必要度の高い問題については出来るところからその解決に取り掛かる必要はあると思いました。

しかし、この市民構想会議では、足元にある喫緊の課題解決への提言やそのための請願も大切ですが、同時に“この街の未来をどうしたいのか”もしくは“どうすれば市民の方々が、沼田市に住んで良かった”と、胸を張れる街になるのか等の、未来に目を向ける議論が不足しているように思います。そのため、この会議が請願・陳情とも受け取られかねない印象が拭いきれませんが、如何でしょうか。

私は、各種の切実なご意見を否定するものではありませんが、このままの議論が市民構想会議と呼ばれる内容となっているのか？と言えば、今、申しあげたような想いから、私にはいささか心もとなく感じます。

そういう意味から、これで本当に良いのか、自問自答しています。

今や世界中が文明史的大変革に突入している時代に、足元の問題をみつめるだけでなく、これからのこの地域の未来の礎とすべきものが何か？を考える事も他方では大切な視点ではないかと考えますが、如何でしょうか。こうした議論が、いささか不足しているように思います。

ところで昨日、群馬県下仁田町ではスマートフォンを高齢者全員に無償で提供するとの報道がありました。高齢者の安全確認や健康状態の確認などをスマートフォンの提供・配布によって、合理的に可能とするメリットや、災害時の緊急対応がこうした手段の活用によって、下仁田町が、これらの問題に速やかに対応処理できることを目指したと報道は伝えていました。この取り組みは地域が抱えるいくつかの課題をローコストで解決するとの目的で進められたともコメントされていました。

委員の皆様から提起されましたご意見でも、とりわけインターネットの利活用が重要なキーワードになるとのご指摘にも、先ほどの下仁田町の取り組みと重なる方向性が示唆されているかと思いました。下仁田町をはじめ全国でこうした取り組みが進められている事実は社会のセイーフティネットの確保という意味で参考になる事実かと思えます。

ただ沼田市でも、2回前の会議で新年度から、この種の取り組みが新たにスタートするとの報告があったと記憶しています。委員の方のご発言に対して、市側からの報告では沼田市が全くこの流れに乗っていない訳ではなく、その取り組みが進められているとの事でしたが、市民目線ではその実情が分かりにくいという指摘は今後のヒントになるように思いました。

海外から多くの外国人の方々が日本全国各地を訪ねる時代になり（インバウンド）、こうしたグローバルな時代を迎えて外国語やその表示を見直し、海外の方々にも親切な案内がなされる取り組みも重要だとのご指摘をされた委員の方のご意見には同感です。

ご存じのようにインターネットと言えば日常生活のレベルでは情報ですが、教育の現場では既に積極的に活用されており、むしろその社会的な活

用が積極的に検討される時代に入っていると思います。

人口減少社会でとりわけ重要なことは一人一人のスキル（特殊な技能、優れた能力、熟練）の向上が必要とされる社会です。個人の能力をどのような分野であれ、これまで以上に高めていく取り組みは、教育に期待する以外ありません。知識の教育とともに人間教育が両輪となっていく教育は沼田市の問題であると同時に、日本の未来の鍵を握る大切な視点です。技術教育の重要性は勿論ですが、技術には必ずそれを必要とする思想が技術に先立って重要です。いかなる技術も思想抜きは技術の為の次術であり、私たちを不幸に陥れる負の側面を生むからです。

以下の事実は「高齢化社会と日本の医療」をテーマにした東京大学医学研究所・教授、上 昌広・先生の講演による指摘（2014年11月18日）です。この講演で上教授は教育機関こそが、地域活性化、地域振興のキーワードと断言しています。地域の力の底上げは教育機関の数によるという指摘は現在の沼田市には唐突すぎる話かもしれませんが、上教授の指摘が経済活動もこの事実に比例していると研究成果から導き出されている点に沼田市の未来を思い描く手がかりがあると考えます。

私たちはどうしても目の前の問題に目をやりがちですが、時代が大きく変革する時にこそ、回り道に見える取り組みであっても、その根本を強く自覚し始めることが肝要だという提言には多くのヒントがあります。

先生の専門が医学研究であり、総合的な先端医学からの社会的な影響や調査に基づいた現実を踏まえた上でのご発言である点で、この指摘には看過できない重要な指摘があると考え、ご紹介したいと考えました。

この提言では、人材養成機関を設置すると人が集まり10年経過すると、その効果が多面的に出てくると調査結果から述べておられます。日本では、まだ30年経過後の調査結果は出ていないとしながらも、アメリカでは町が完全にリフレッシュした事実をあげて、これらの調査データから地域活性化や経済の活性化を期待するには、教育機関の設置が何よりも必要だと提案されています。

この研究では2,500万人の人口で東京と京都を中心にした関西圏を比較すると、残念ながら教育力は「西高東低」で、ノーベル賞の受賞者数は、名古屋から西に多いと指摘されています。その理由が国からの大学に対する交付金の額が西高東低であり、産学協同によるベンチャー企業も、西から輩出しているその事実、教育機関数と時代を切り拓くベンチャー企業数とが相関関係にあると説いておられます。

これからの地域活性化が教育機関を造り、人を育てることだとする、上教授のこの調査結果は少子化が加速する時代の可能性を探る貴重な提言であると思います。

前回の会議で『郷科学習』についてのお取組みのご発言が委員の方からありましたが、このような意味も含めて、ここには「上毛かるた」の歴史が語るように、教育には極めて熱心に取り組んでこられた実績があります。

また沼田市の図書館は児童図書では多くの図書を蔵していると聞き及んでいます。

「世界の児童図書がある沼田」を切り口に、『子供と未来の社会を考える沼田市という標語（仮称）』を掲げ、新たな街づくりを進められる方途もあると思います。

そろそろ、そのようなことも考える時期にきていると思います。児童図書を切り口に、個々に関わる様々な人々や問題を沼田で開催していく道もあり、その多岐にわたる裾野の人々をここに集客し活性化を図る事も可能だからです。

上教授の指摘にある、教育の上で西高東低であることは、明治以降の歴史が創りあげてきたことであり、今更どうこう言うことはできませんが、教育につながる切り口を軸に、新たな取り組みを市民あげて取り組んでいくことには、大きな可能性です。

他の視点では、60歳未満の医師数は、2010年から2035年迄で、2割しか増えないそうです。ところが、60歳以上の医師数は、2010年から2035年までには、現在の倍になると上教授は述べています。看護師数も同様だと結論付けています。このような事実は高齢者の医療や介護を考える際のヒントとなる現実です。

驚くことに人口割での医師数のトップは徳島だそうで、その次が東京、京都と続き、ワースト3は埼玉、千葉などの関東圏だと先の調査結果から語られています。その理由は都市化で人口が集中する東京であっても大学に対する交付金額が関西圏に比べて、関東圏が圧倒的に低いからだだと結論付けています。

これまでの皆さんのご意見にもありましたが、この町が更に飛躍するために、教育立市の目標を明確に立ててみてはどうでしょうか。教育が地域振興の最大の活力になるとする考え方は上教授の調査は勿論、本市の良き伝統として潜在力となっていると確信しています。時代の要請に合致する教育機関を造ることにより、大きな人の動きが出てくるとい調査結果は未来に明るい光を投げかけていると思います。

会 長： ありがとうございます。

本日はここまでとしたい。その他で事務局から何かあるか。

② その他

事務局： 本年度最後の会議でありまして、一年間大変お世話になりお礼申し上げます。次年度については、団体から推薦されている委員の交替が想定される。来年度の会議については、5月下旬から6月上旬に開催する予定である。

会 長： これで本日の会議を終了する。

一年間大変お世話になり、心から感謝申し上げます。

(5) 閉 会（事務局）